

## 手足口病が大流行

こんにちは。今年の梅雨は比較的雨が少なく、冷夏かなと思ったら、8月に入った途端に記録的な猛暑が続いています。そうした中、今年はこれまでになく「手足口病」が大流行しています。手足口病は、エンテロウイルスやコクサッキーウイルスによる急性ウイルス感染症で、いわゆる「夏風邪」の一つです。その名の通り、手や足や口腔粘膜に現れる2-3 mmの水疱を主症状とするものです。例年夏に流行する感染症で、主に4歳くらいまでの乳幼児がかかることが多いのですが、大人もかかることがあります。ウイルスに感染してから3-5日後に、口の中や手のひら、足の裏や足の甲に水泡が出てきます。また38度以下の発熱を伴うこともあります。中には高熱が出る子、熱が出ない子、また不顕性感染（感染しても症状が表れない状態）で知らないうちにかかっていた子などもあります。ウイルス感染症なので、抗生物質は効かず、特に有効な薬や治療法はありません。通常は、発症してから数日間でほとんど治る病気です。まれに髄膜炎などの合併症を伴うこともあります。グッタリしたり、高熱が出たり、食べられないようでしたら、無理せずお休みさせましょう。

主な感染経路は、咳やくしゃみのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛沫感染」です。また鼻水や口をぬぐってウイルスがついた手で、口や手などの粘膜に触れることでうつる「接触感染」もあります。また便にもウイルスが排泄されるので、排泄物の適切な処理に気をつけなければなりません。



また鼻水や口をぬぐってウイルスがついた手で、口や手などの粘膜に触れることでうつる「接触感染」もあります。また便にもウイルスが排泄されるので、排泄物の適切な処理に気をつけなければなりません。

ん。

感染防止のための予防策ですが、手足口病は、インフルエンザなどの学校伝染病には指定されていないので、出席停止などが決められていません。また治っても、しばらく便中にウイルスが排泄されているので、発病した人を長期間隔離したり、出席停止とするのは感染防止策としてはあまり現実的ではありません。中には軽い症状だけで、気づかないうちにかかっている子もいるのですから。手足口病は感染してはいけない特別な病気ではありません。実際にできる予防策としては、流水と石鹸でしっかりと手洗いをする事です。特に排泄物やオムツを処理した後は、しっかりと手を洗いましょう。またタオルやハンカチ、口に含む物の使いまわしも感染の危険性を高めるので、これらは自分の物を使いましょう。